



一九九八年の夏

第五福竜丸事件からのメッセージ

河井 智康

インドとパキスタンの核実験が国際政治に新たな緊張をもたらしている。九八年の原水爆禁止世界大会には、そのインド・パキスタンからの参加を含め、いつもより多くの海外代表が結集した。核戦争の危機、新たな核軍拡競争の危険が語られ、核廃絶の緊急性が今まで以上に増大していることを確認した。NPT(核不拡散条約)やCTBT(包括的核実験禁止条約)による核兵器管理論は首をたてて崩れ去り、ソ連崩壊後一〇年近くを経て、いま核兵器をめぐる新たな危機を迎えようとしているのである。

私には、それはあたかも広島・長崎の惨劇の九年後におきた、第五福竜丸事件に似た衝撃が世界に走ったように思われてならない。そうならば、第五福竜丸事件で得た教訓を世界に発信し、インド・パキスタンの核実験を契機とする

核廃絶運動の更なる盛り上げに貢献すべきではなからうか。以下は私の考えるメッセージ案である。

核実験は「安全」という言葉が常に修飾語としてつけられる。しかしかかつて安全な核実験は一つとしてなかった。ピキニ水爆実験でも、「危険区域」が太平洋のど真中に設定されたが、第五福竜丸はその危険区域の外側にいて被害に会ったではないか。また、核保有国では、核兵器製造の過程や、実験場での労働者のヒバクも不可避的である。インドでもパキスタンでも、少なくないヒバク者をつくり出していることはあきらみかた。両国民をはじめ、世界の人々はまずそのことを知らねばならない。

二つ目は核実験による環境破壊のすさまじさである。第五福竜丸事件では、僅か数カ月の内に太平洋中のマグロから放射能が検出さ

れた。中にはインド洋のマグロで汚染されたものもあった。それは水が汚染され、微生物が汚染され小魚が、マグロがと食物連鎖を通じて一万倍にも濃縮され汚染が伝播したのだ。たとえ地下核実験でも、ネバダでは地下の水源が汚染されている。そして環境破壊は食料資源を台なしにする。第五福竜丸事件のマグロパニックは正に人々の生活を直撃した。いま世界は人口増による食料不足の時代を迎えようとしている。これ以上地球を痛めつけることは、結局は天に唾する行為だということに皆で確認しようではないか。

そしてもう一つ、第五福竜丸事件から得た偉大な教訓がある。それは、人々が団結して事に当たれば、災い転じて福となすことができるのを、全世界に示したことがある。広島・長崎につぐ三度目の核被害に、日本中が怒り、ついに原水爆禁止世界大会を実現させた。それは日本だけでなく、世界の反核運動を呼び起こし、結果として発展させてきた。そのことが幾度かおそった核戦争の危機をのりこえ、いま世界にうねりとなって起きつつある核廃絶の世論づくり

しているといっても過言ではない。もしこの世界大会が無かったならば、核兵器という悪魔の魅力への歯止めが果たして存在しえただであらうか。

今度はインド・パキスタン核実験の災いを福に転ずる番だ。目標は一つ、核兵器の廃絶である。九八年の原水爆禁止世界大会は、今から二〇〇〇年の未までを国際共同行動期間に設定した。

世界大会の発足を実現したあの時のエネルギーをいま世界中で発揮するならば、人類は核廃絶という大きな福を手に入れるに違いない。それは少数の力による世界支配という野望から人類が解放されるときでもある。そこには人類の確実な進歩が待っているであろう。世界の民よ、いまこそ手をとり合って、核廃絶のために立ち上がるのではないか。

(原水爆禁止世界大会実行委員会 運営委員会代表)



熊野灘から世界に平和をアピール

エンジン引き揚げの地に記念碑建立

杉 末 廣

「町は一九九一年に反核平和の町宣言をしました。こうした除幕式ができる意義は大きく、うれしい。杉さんの情熱、ご尽力にお礼を申し上げます。核兵器廃絶を叫び、その方向に向かわないと世界の平和はないと信じています。インド・パキスタンの相次ぐ核実験があり、このような理不尽を重ねては人類が滅びてしまう。記念碑の建立は、町が核兵器廃絶を先頭に立つて訴えるためのあかし

です」。六月三十日、三重県御浜町で行なわれた第五福竜丸エンジン引き揚げの記念除幕式で、奥西清町長はこうあいさつをおこなった。記念碑は御浜町の自然石に「第五福竜丸エンジン引き揚げの地」の文字を刻み込み、御浜町役場中庭に建立された。

一九九六年十二月二日、三重県南牟婁郡御浜町の熊野灘沖で引き揚げられ、昨年十二月二日、引き揚げ一周年の記念日に現地で集い

がもたれ、町当局に記念碑の建立が訴えられていた。この熊野灘から太平洋を望み、世界に平和をアピールする絶好の場所に、是非記念碑建立をとの願いであった。幸い新年度の予算で、新庁舎内庭園に「第五福竜丸エンジン引き揚げの地」の記念碑とエンジンがたどった歴史を御影石に刻んだ碑の二つが建立されることに決まり、関係者の努力と町の人々の願いが実って、六月三十日の除幕式になったのであった。

除幕式には町長はじめ町議会議員

長、副議長、収入役、教育長、企画振興課長、建設課長など町関係者、紀南漁業協同組合長などが出席、私も招かれ、共に記念碑の除幕を行なった。記念碑は重量二トン、幅一四〇センチ、高さ九〇センチで第五福竜丸エンジン引き揚げの地と肉太の大きな文字を刻み、由来を刻んだ碑は、幅二二〇センチ、高さ五五センチで、古座町での進水から第五福竜丸被ばくの日時、廃船に至るまでの経緯、エンジンが尾鷲市の貨物船に積まれたこと、熊野灘に沈んだこと、発見され引き揚げられるにいたった歴史が簡明に刻まれている。

記念碑は熊野灘の沖合約五〇メートル、水深約十メートルの引き揚げ地に向かう方向に新庁舎と結ぶ格好に建立され、記念碑中央付近から見える電柱と記念碑を結んだ線の二百メートル先が引き揚げの現場である。その付近の松林の木で船は作られ、松林を前にエンジン

は沈んでいたのだった。まさに鎮魂、永遠の平和を祈念するにふさわしい場所である。二つの碑のそばには、県内や和歌山県のこともちの思いをつづった作文などをいれた「タイムカプセル」が埋められた。

三重県の丸山、桃青、大台中学校、和歌山県海南市の海南一中、二中、三中、東海南中、下津一中の千五百人余りの生徒が、平和への思いをつづった色紙や作文、その多くは展示館を訪れた学校であるが、見学の時の記念写真、新聞報道のスクラップ帳ビデオテープなども三十センチ四方のプラスチックの箱にいれられた。

「世界中が平和になっていくための重要なエンジン」「第五福竜丸よ、すべての国に平和を」など思いが寄せ書きされ、カプセルが開封される二十年後の未来に思いをはせた作文も多い。

「町の歴史がひとつつづられた」と奥西町長は感慨をのべたが、二十年後の日本はどうなっているかの思いが私の胸によぎった。七年間通い続け、お世話になった関係者に後ろ髪を引かれる思いで現地に別れをつづけた。

(海南市市民)



「第五福竜丸エンジン引き揚げの地」記念碑 三重県御浜町役場中庭